

宇都宮市 学校 情報教育 だより

パソコンやフラッシュメモリー等の盗難・紛失による、個人情報の流出が大きな社会問題となっています。セキュリティに関するルールを再度確認し、以下に示す例を参考として全教職員で共通理解を図り、組織的に情報管理の徹底に努めることが大切です。教育現場では、子どもたちの個人情報を取り扱う場面が多々あります。最低限できることは、確実にいきましょう。

個人情報を含むデータ取り扱いの原則

宇都宮市学校教育セキュリティポリシー H17

宇都宮市立小中学校における個人情報保護の取扱い H18

個人情報の管理の徹底について H19.8.29 参照

教育委員会で配備しているパソコン及び個人情報にかかわるデータについては、外部に持ち出してはならない。

職務遂行上、やむを得ず個人情報を外部に持ち出す場合には、必ず管理責任者である学校長の許可を得ること。また、持ち出しは、必要最小限のデータとすること。

パソコン・USB メモリ等の記録媒体や保存してあるデータには、パスワードをかけたり暗号化をしたりして、第三者が容易にその内容を知りえないよう措置を講じなければならない。

個人情報は常時携帯し、放置してはならない。また、帰宅途中での寄り道を禁ずる。



1 ワードやエクセルなどのファイルのセキュリティを確保する方法

ファイルへパスワードを設定する

「ツール」「オプション」「セキュリティ」
「読み取りパスワード・書き込みパスワード」
または
「ファイル」「名前を付けて保存」「ツール」
「セキュリティオプション」
「読み取りパスワード・書き込みパスワード」



教員用貸与
パソコン

個人所有
パソコン

パスワードを設定しても絶対安心というわけではありません。フリーソフト等で解析されることもあり得ます。

持ち出すデータに暗号化をかける

教員用貸与パソコンの機能として可能
「持ち出し時 = 帰宅時のみの暗号化」となる」

教員用貸与パソコンの「マイコンピュータ」
「暗号化持ち出し」「暗号化」から実施
教員用貸与パソコンのデスクトップ「自己複
合型機密ファイル作成」から実施

教員用貸与
パソコン

Cosmo 取扱説明書
P13～17 参照



事務用・共用デスクトップパソコンは多様なソフトのインストールが予想され、その不具合回避のため暗号化ソフトは導入されておりません。

2 個人所有パソコンのセキュリティを確保する方法

個人情報を含んだデータを削除する

校務上のデータの保管先は、原則として職員室サーバとする。

個人情報を含むファイルを、パソコンのハードディスクに保存しないようにする。

個人所有
パソコン



パソコン起動時のパスワード

第三者が起動できないようにする。
複数のユーザがある場合は、その全てに設定する。

「スタート」メニュー 「コントロールパネル」
「ユーザーアカウント」 アカウントを選び
「パスワードの設定」

個人所有
パソコン

3 家の個人所有パソコンのセキュリティを確保する方法

ネット上に流出したファイルの回収は難しいのが現状です。

ウイルス対策ソフトのパターンファイルは、最新のものになっているか？

日々、新しいウイルスが生まれている。ウイルス対策ソフトがインストールされていても、期限がきれていたり定義ファイルの更新がなされていなかったりすると、無意味である。

マイクロソフトのセキュリティパッチ(アップデート)を行っているか？

ウイルスは、OS (Windows) のセキュリティホール (脆弱性) をねらって侵入する。

「スタート」メニュー 「コントロールパネル」 「セキュリティセンター」 「自動更新」 「自動 (推奨)」 にチェック (WindowsXP SP2 の場合)



ウィニーやシェアなどのファイル共有ソフトを、使用したことはないか？

一度でも使用したことがある場合、ソフトを削除しても危険！ウィニーに感染したウイルスによって、デスクトップ画面やファイルが意図せずネット上に流出してしまう。

家族で共用するなどして、どんな使われ方をしているのか分からないパソコンを、使っていないか？

ウイルスに感染しても表面上は普段と変わらない場合もあるので、知らぬ間に情報を流出させたり他のパソコンへウイルスを拡散させたりすることもある。

4 個人所有パソコンが自分の手元を離れる際に注意すること



普通にデータを消去 (ゴミ箱から消去) しても、パソコンのハードディスク上にはデータが残っている場合があります。データ復元ソフトを使うと簡単に復元され、情報の流出につながります。データを完全に消去するためには、専用ソフトウェアで消去する等の方法があります。



廃棄
譲渡
下取り



データ消去ソフトの使用 (全校配付済み)
物理的な破壊 など

「自分たちを縛るもの」から「自分たちを守ってくれるもの」へ

仕事のしやすさだけを追求しては、セキュリティの確保は実現されません。以前に比べて、多くの情報が電子データとして処理されている現実を考えると、責任の所在を明確にしたうえで、情報の管理を慎重に行わなければなりません。「情報の安全を確保するための約束」は、「わたしたちを守ってくれるもの」と言えるでしょう。

個人情報を含むデータの例

- ・ 児童生徒名簿 ・ 緊急連絡網 ・ 成績一覧
- ・ 入試成績 ・ 調査書 ・ 進路結果
- ・ 通知票や指導要録の下書き ・ 保健統計 等

紙媒体の公的な文書については注意をはらって取り扱うことが多いのですが、それを電子データ化すると、意識が薄れてしまいがちです。

